

■ 第 1 回 北上川水系河川整備学識者懇談会議事概要 ■

日時：平成 19 年 5 月 31 日（木） 14 時～17 時

場所：ホテルメトロポリタン盛岡 NEW WING

メトロポリタンホール東

(発言者) ●：委員

○：事務局

議 事

- 最初の議事、「北上川水系河川整備計画策定の流れ」について事務局より説明をお願いします。
- 北上川水系河川整備計画策定の流れ・・・資料 4 に基づき説明。
- いまの流れについてご質問ございますでしょうか。かなり厳しいスケジュールとであるかもしれませんが。融通性があるということですのでこのような全体の流れでいきたいと思っておりますので宜しくお願いいたします。それでは次の整備基本方針についてお願いします。
- 北上川水系河川整備基本方針の内容説明・・・資料 5・6 に基づき説明。
- 北上川流域の概要に進む前に質問があればお願いします。
- 整備計画のベースとなるものに流量配分があると思いますが、資料 6 の 2 ページの新旧対照の流量配分図において新の方では築川の流量配分が一切記載されていないようすがお聞きしたい。
- これは全国的な決め事なのですが、支川流量が本川流量の 10 分の 1 ぐらいのものは記載しないことになっており、それ以上のものは記載するルールに沿ったものでございます。
- ということは稗貫川よりも新の方では少ないということですか。
- 築川流域に工実で求めていた量としては、残流域を含めて 1600m³/sec、今回は残流域は残流域、築川は築川としてカウントした結果、本川流量の 10 分の 1 以下だったのでこのような表記になっているものです。
- 資料 6 の 3 ページの②に写真が二つ載っているのですが、左側 1100m³/sec の河川イメージが河川景観を保全しているとあるようですが、必ずしもそうでないと申しておきたいです。あとで議論していきたいと思っております。左側の風景が良くて右側の風景はもっと河川景観を守れたというイメージでまとめていらっしゃるのではないかと思います。これは治水上の理由でこうした方が良いとの分かりますけども。
- 資料 6 の 2 ページを見て頂きたいのですが、工実では四十四田ダムの下流が 1100m³/sec と記載しております。基本方針では 900m³/sec と記載しております。実際はどのような風景を呈しているかという 900m³/sec に近いのが現風景です。それで元々の計画ですと 1100m³/sec で高水敷きをみんな切らないといけなかったのですが、ダムを有効的に活用して市民に緑の場をオープンスペースを確保できる、というのがこの絵でございます。
- 補足しますと方針を策定する際に、社会資本整備審議会（小委員会）で議論していただきました。盛岡の明治 43 年の洪水が発生した場合には、ここは盛岡の駅前ですから 1

100m³/secの河道は今後とも必要ではないかとの意見もございました。しかし盛岡の町並みと北上川の風景が貴重な財産ではないかとのご意見もありました。そういった中で、流量の検討をしまして、今の盛岡の北上川の風景を後世に残していくことが価値がある、そのための対策を別途考えるということがありました。北上川の将来的な目標安全度を100年から150年に発生しうる洪水対応にグレードを上げた関係で、治水の対策として既往洪水調節施設の治水機能向上を図るとともに、洪水調節施設を整備することで、盛岡を通過させる流量を結果的に押さえることが可能となったということで、今の風景がほとんど残るのではないかということを示した絵でございます。

- よく分かりました。治水安全度を100分の1から150分の1に向上させることにより、左側の絵になってしまうのではと勘違いしてしまったということです。
- よろしいでしょうか。では続けてお願いします。
- 引き続き基本方針の説明・・・資料6に基づき説明。
- ありがとうございました。北上川の全体像、どのような問題があるかどんな方向に進めていこうとしているのかの概説を頂いた訳ですが、これだけご説明を頂いても委員の皆様方はご自分のご専門以外の部分については、そういう問題があるのかなという程度にしかお分かり頂けないのが普通ではと思います。まあ、そういうことを踏まえながら河川整備基本方針についてご理解を頂き、それに基づいて策定する河川整備計画を決めるということは具体的には、上流部会、下流部会の中で、一生懸命、揉んで頂きたいと思えます。ですから詳しいご説明等もそちらの方でお願いしたいと思えます。そこですが、今回は最初でございますので完全にはご理解いただけてないとは思いますが、委員の方として私はこういう立場から物事を見るんだということを含めた簡単な自己紹介、それから今の説明に関しての質問でもいいですし、このように計画を作っていただきたいとか希望でも構いませんので、1人2、3分ということでご発言をお願いしたいと思います。
- 土木工学が専門でして、水工学が専門ですので先程のようにどうしても水の量とかに目がいってしまいます。先程の説明の中でもいくつか気になると思ったものがありますので、その辺はを考えながら進めたいと思えます。それから首藤先生がおっしゃっておられましたますがまずは上流部会と下流部会に分けて、これからはなるべく部会の中では本音を引き出して懇談会の場で如何に結び付けるかという役目だと思えますので、その辺少し考えながらやっていきたいと思えます。
- 特にありませんが、かつて高橋裕先生が「河川の本質は自然物だと認識すること。道路は人工物、河川は自然物。」と聞いたときは、僕はすごいことをおっしゃっていると思ってましたのでそういう意識で発言していきたいと思えます。
- 自分の場合は、この基本方針案を策定する前の「次世代の北上川を考える流域懇談会」の委員をさせて頂いておりましたので、その場であらかじめ意見は言わせて頂いておりました。ひとつだけありますが、資料6の8ページですが北上川特定地域総合開発計画となっておりますが、川はいらなく北上特定地域総合開発計画だと思えますのでご確認頂いて修正頂ければと思えます。
- 河川法が平成9年でしたか変わったということで、その時に環境の調和というものが新たにはいつてきたと認識しておりますが、私の立場としては水環境というか、水辺をど

う利用するか、親水空間としてどうなのかということ踏まえてお話しさせていただければと思っております。環境教育という中で河川をどう利用するか言われるのですが、どちらかというと川は危ないから近づくなというのが昨今の風潮のようですので、そういうことと治水とか利水とかどのように関わっているかを考えていきたいと思っております。

●私は植物を研究しております、川辺の植物に関しては様々な代弁がたくさんありまして、例えば20、21ページの説明の中に、課題と対応というものがこのページだけ出てくるんですね。ということは、この整備計画の中で自然と開発というか整備がぶつかっているということを表しているかと思われまして。この対応に関してははっきり私の立場から言うと掘削によって、生物の生活環境が制圧されるということなので、ちょっと厳しいのかなという気がします。それはこの整備計画の中にも、生物多様性国家戦略という文言が一言も出てこないように、やはり自然に対して生物に対してあまりやさしくはない。多様性を得るためにはなるべく広い自然の面積を取る必要があるというような状況がありますし、例えばそれに対してもう一つ今あるのは、持ち込まれた生物ということで問題となっている帰化生物の話でそういう外来生物がこういう所に入ってくるのは、人間が様々な手を付けた開発あるいは攪乱した場所に対して外来生物が入ってくるので、整備が整備とならないまま私の目からすると攪乱した場所となって帰化生物が入ってくる、例えば、セイタカアワダチの問題とか、自然の状態だと本来は入らないものが入ってくる状況があるので、常にこの整備とこういう自然とぶつかっている部分かと思っております。それは資料の20、21ページの課題と対応というここだけにしか出てくるということがありますので、環境というものを私は自然環境をみていますので、自然環境とはいかに自然の状態で川を水を流してくれるか、流れていってもらおうかということが問題であってぶつかる部分、相違する部分があると思っておりますけど、なるべく生物に優しい環境を造っていただけるような整備計画を立てて頂きたいと思っております。

●私の立場としては有害菌類の抑制で、北上川上流域でのヒ素ですとか有害金属の動向などに関心がございます。川はつながっているわけで、その部分の最初の視点がかなり小さいところから始まっているので、そういう有害物質とかが北上川全体の環境影響にどんなことに関与しているかそのようなところから様々な意見させて頂ければと思っております。

●大変勉強になりましたし、約一年後計画策定を楽しみにしております。その中で何点かお願いしたいというか要望があります。一つは治水と利水ということでございます。治水のことはそのとおりですが利水ということで北上川が如何に地域の人々の生活に役立っているか、役に立ってきたかをもっと強調して取りまとめたいと思っております。明治の中期までの物流は東北新幹線なり東北高速道に相当するような役割だと思っておりますし、現在は農業用水あるいはエネルギーの元になっておりますので、まあそういった川はなんとなく迷惑な暴れ川ですので押さえなきゃいけないのではなく、これが無ければ生きていけないわけですので、その必要性を出すことが最終的には治水予算に対する理解も生まれるのではないかなと思うわけです。二点目はこれまで私たち奥州市もそうですが、各地域の自治体の方から大なり小なり要望があると思っておりますので、それを何らかの方法でまとめて頂きたい。三つ目ですが、できれば日本国内もそうだが海外でも参考になる治水対策、親水空間造りをご紹介いただきたい。最後に、この資料をずっとお聞

きしたりして治水安全度とかの河川用語について、実はよく分からないものなので地名等も含めフリガナを振って頂きたい。私ども自治体が総合計画を作る時は、一番最後に索引をつけるんですね。これは一般住民の目です。行政からみれば常識で書く必要のないことでも、一般住民からみれば何のことだかさっぱり分からないということも多いですので、資料もおいおい整理して頂ければと思います。

- 一関市はご存じのとおり遊水地がございます。私は遊水地はダムだと思っているのです。私どもで下流を守る、上流の水を引くということがある訳です。これにつきましては、一生懸命整備をして頂いて、周囲堤という大きな堤防で守られているのです。ここで一言、言わせて頂ければ、遊水地、まあダムと言えはやむを得ないのかなと思っていますが、町の安全を守って頂きたいという意味では、狭窄部と磐井川の嵩上げではないかなと思います。嵩上げではご承知のとおり磐井川は市の中心部を流れている訳でございます。カスリン・アイオンの時のように堤防が決壊しますとみんな怒濤のように流れるということになってしまいます。従いまして、まだ磐井川の堤防が弱いということなので非常に心配をしております。早く安全なところにして頂きたいと思っております。いずれに致しましても、遊水地というダムで私どもは大分上流下流に貢献していると思っておりますので、貢献することは良いことですが、同時に安全を出来るだけ早く守って頂きたいと思っております。磐井川の堤防、小堤に着工して頂いておりますが、中々難しい問題を抱えているとは思っておりますので、宜しくお願ひしたいと思っております。
- ただ今の説明の中でいくつかの事例も取り上げて頂いてありがとうございます。非常に関心が高いのは自然を生かした川沿いの景観の事業にいくつか取り組んでいることについて、後ほど発言させて頂きたいと思っております。川の利用では親水教育という面で、取り組んでいるメンバーもおりますので、こんなことも事例紹介ありましたので整備に向けてお願ひをしたいと思っております。全体としての整備に関しては問題も出ておりますが、これも整理をして頂いておりますので大変ありがたいと思っております。様々な勉強になりました。具体的に取り組んで事例なども後ほどご提案をさせて頂きたいと思っております。宜しくお願ひします。
- 本日、参加させて頂いて登米市内だけではなく北上川沿川に係る各地域の取り組みの様子、拝聴させて頂きました。登米市の場合は地形的に申しますと非常に標高差が低く、平坦な地域でございます。それだけに如何にスムーズに流水を処理するかという大きな課題がございます。そういった意味では本年度中に完工予定の北上川分流堰のおかげで安全度が高まるので大きく地域の皆様にもご期待を頂いているところでございます。そしてまた一つ思っていることですが、利水、治水それから環境ということで、取り上げられておりますが先程他の委員さんからご発言があったように、やはりこれからは河川を如何に生活とか日々の人々との関わり合いの中で、造っていくことができるのかということが実は大きな問題であると思っております。それは、決して河川が安全なものだということだけではなく、安全な部分と危険な部分、そういったものをより広く理解していく中で、実は治水だけではカバー出来かねない、人災に係る災害を如何に低減させることができるのかという意味では、普段から河川に関する関心を広く持って頂けるような取り組みが必要ではないかと思っております。自助、共助、公助やはり大原則は自分の身をしっかりと守るための情報を理解出来る人づくり、それがこの河川の

ことでも大きな問題ではないかなと思っておりますので、そういったことも視野に入れながらこれから懇談会の中で、また我々行政を預かる者として学ばせて頂きたいと思っています。

- 私は野生動物が専門ですが、野生動物のためには人のためであります、川の流れそのものが野生動物の移動の街道として機能している訳ですけれども、まあこれから魚類等についても食糧事情が大変になっている中で、昔は水田漁業がさかんで水田でどじょうとかうなぎとか取ってですねタンパク質にしていたということもあります。今朝か昨日のニュースでは、ロシアが生のカニを輸出しなくなるということがありましたけども、この北上川にはモクズガニが活着しているようですので、前から申し上げているとおりですが、そういう川を使って上り下りする魚類の通路を確保して、将来人間もあと30年で現在の人口の4分の1が減ってしまい公共投資も減るでしょうから、その時に生きるためには食料がなければならない訳ですから、総合的にですね河川環境と自然の恵みを受けるということを総合的な計画で考えていきたいと思っております。あとは細かいところでは、基本高水流量とか正常流量についてまだ数値で分からないところがありますので、部会の方で聞いていきたいと思っております。

- 私ども宮城県立図書館において現在、「二十二世紀を牽引する叡智の杜づくり」をテーマに事業を進めております。今度、国のモデル事業に指定されましたが、この考え方でございますが、今一番何が大切なのかということで、次の代を担う人たちにしっかりと自信と誇りを持って語れる日本やふるさと、歴史、文化を伝える空間ということが主旨でございます。そのため、県立図書館では源氏物語絵巻とかそういうものを何十万何百万と作って高等学校とかそういうところに回し、生徒が実際に手に取ってみる、そういうことをさせて頂いております。その他にいろんな事業を展開しております。その中で、そちらで進めていらっしゃる整備計画でございますが、水辺というのは私たちにとって一番身近な大切な場所でございます。いろんな整備に併せて各先人が水とどう接してきたかあるいは、日本人の心の源風景としてのそういういろんなことをですね、次の時代の人たちにしっかりと伝えるようなものを整備計画の中に盛り込んで頂ければと思っております。

今大切な日本人の心の再生、そういうよりもこの整備計画の中に、それが盛り込まれそしてそういう水辺空間施設が、人間として一番大切なことをそこでこう知るような機会を提供するような場所となるよう計画の中に盛り込んで頂ければと考えております。

- 私は水質環境、生態学を専門としております。いろいろ言っていますはいますが、私の環境に関する考えは、水の中の生産と表裏一体という立場で考えております。目に見えづらい問題と目に見えやすい問題とあって特に北上川ですと、10年以上前から言っているんですけども、海の生産にとって大切な極めて重要といわれるケイ素がとても減ってきている。これは砂の供給とかで元々移動していたものが移動しなくなっているということが関係していると思うのですが、多少他の委員の方々とはぶつかることがあると思うのですが、ダム洪水調節の安全の確保の意味からも少し土砂を出して頂いて、川そして海へと上手に砂を運んで頂けるような、そういうものがないと将来、東北の沿岸、北上川の沿岸は大変なことになると考えておりますので少々辛口ではございますが、せ

ひそういったような危機意識に目を向けて頂きたい。川は海を育むということを理解して欲しいと思っています。

- 私は、女川という北上川の最下流域の沿岸におりまして水族の遺伝特殊学という研究をしております。今回この会に参加させて頂いて、治水・利水・環境というコンセプトが平成9年出来まして、これはまさに人間が川に目を向けてきた、ただ、目を向けてきたけど実質的に環境が表に出てきたということで生物の方からその話が出るのかなと思っています。高崎先生と同じ様に沿岸におりますので、沿岸の女川町で起こっている海藻が無くなるという現象にも川が大きく関わっている可能性がありますのでこの辺も併せて出来るだけご協力させて頂きたいと思います。なお一つだけですが、資料6、21ページの「ヒラメ等の純海水性」のヒラメをカレイにした方がよいかと思います。ヒラメは川の中に入ってくることは非常に珍しく、北上川の下流で釣れてくるのはカレイでございます。以上でございます。
- 私の専門は水質とか水環境とかです。一つ、水質の方でいくとやはり松尾鉱山のところがこれからどういう風にやっていくのか心配しているところでございます。それからこの基本方針の中で築堤とか移住とか嵩上げとか、全国でも初めてみたいところが出来たわけです。治水のところでは北上川上流部に盛岡があって一番人口の多いところとなっています。それから北上川全体として30年間の計画をつくるということですから、30年間の中で優先順位みたいなタイムスケジュールを入れる必要があるのではないかと考えています。環境を含めてどこから整備していくのか、上流と下流と二つの事務所がありますので全体としてどこからやっていくのか、計画の中に入れてほしいと思っています。
- 専門は保全生物学ということで、専門は鳥類の生態ですが岩手に来てからは鳥だけではなくて、水田や水路の魚類や両生・爬虫類等も対象として研究しております。保全生物学ということで絶滅に瀕した生物、特に動物を対象としてその動物が絶滅しないような、どのような生態をもっているのかどういった環境条件を持たせればよいのかというような事を対象に研究しております。河川については今まで取り組んだことは無いのですが、水田周辺のメダカなどを研究しています。河川の水田部に集落が出来たりして、人が水を利用して生活してきたわけで河川を考える上で治水ということを前提に考えなきゃいけないということは確かにあると思います。治水と利水という前提があって環境があると思いますが、これまでの近代の土木工事によってそれまでの治水利水の古い時代というのはこれまでの自然と共生した治水と利水であったと思うのですが、戦後の大型の土木工事などによって、完全に人間だけの治水と利水になってしまって、生物には住みづらい河川環境になっていると言わざるを得ないと思います。これからの河川整備を考える21世紀型と言われる新世代の整備計画を立てる上で、生物、環境といった面を新しい技術を駆使して生物のために住みやすいような川づくりをしていくという、新しい発想、転換が求められるのではないかなと思います。先程、首藤先生が生き物の代弁者というご発言をされましたけども、私はこの中で何人かの生物担当ということで、生き物の代弁者の1人として河川整備計画に関わらせて頂きたいと思います。
- 専門は水工学で山の生き方、川の話、海岸の話をさせて頂いております。そういう立場なので、基本方針についての本省の作成委員会に関わりました。それから阿武隈川の整

備計画の作成、北上川の関係ということで涌谷町、富谷町のハザードマップの作成の委員長をさせて頂きました。それから蕪栗沼の環境整備で住民と治水の話と環境の話と全部ひっくるめまして非常に突っ込んだ議論をしてうまく共有関係ができるようなものになったと思います。北上川は断面図を見て分かるように、岩手県は急な川、宮城県は平坦な川ということで元々日本の地形は、宮城県の北側の平野は海だった。その中に北上川の土砂をどんどんため込みながら今の放射形状を作っていたそういう風な時代で、どこまでも岸がないような川であった訳です、宮城県内で言うと。そのようなところで先人達が川が動かないように堤防を築いて固定し、水はけをよくしてやっと現在の穀倉地帯となった。先程の改修の話にもありましたように、いろいろな人間の手が掛かっておりました。それは先人達が知恵を出して生活をよくしてきた結果だろうと思います。我々先人達に笑われないような知恵を出していきたいと思っています。但し、いわゆる日本の人口が完全にピークを超えて下がりはじめた訳です。今まで知恵を出してどんどん発展思考であったものが、今度は下がり出す時代になってきました。いろいろな者の考え方が変わってくると川に対する付き合い方も、経済が停滞しているからちょっとお金が使えないということで暮らし方が変わってくるということを考えながら、変わってくると思います。下流の部会長を拝命しましたので皆様の意見を交換しながら進めたいと思います。

- ありがとうございます。最後に一言申したいと思います。千葉県の銚子の沖合がイルカのウオッチングの目玉の場所であるということをご存じないと思います。あそこは、成功率95%でなんでイルカが集まるかということ、真鯛が集まっている。なんで真鯛が集まるかということ、利根川が運んでくる餌を目当てに集まってくる。ですから我々、川だけに追っていますけれども利根川の流域全体からそういうものが運ばれてくる。ですから北上川も河川だけに目を向けるのではなく、流域がどんなことに役立っているかどのように悪さをするか十分に視野に入れながら、手を伸ばせる範囲は制限されるかもしれませんが、それを考える下地としては流域全体を見ながらやって頂きたいと思います。それから上流部会、下流部会に分けたのが良いのか、悪いのか実は迷っているのですが冒頭に申し上げましたように、各部会内にエゴが収まってしまって他の部会に情報がいかないのは困るので、上流部会の議事録を下流部会へ、その逆もという仕組みをぜひ部会の皆さんの了解を得て実施して頂きたいと思います。それから奥州市の相原市長がおっしゃったのですが、各地方自治体の要望が出ておると思います。それをなんとかまとめて頂いて委員の皆様には実は地域ではこういう要望があるんだという生の声を配布して頂き、地域から上がってくるのはパブリックコメントの場を持たれば良いというのではなく、前々からそういう声があるのはまとめて委員の皆様知って頂き協力をしながら議論をしていく、これが私からのお願いでございます。

では、最後に今後の予定について事務局からご説明願います。

- 次回の懇談会はスケジュール案でもお示ししたとおり現地視察となっております。すでに調整をさせて頂いており決定しております。下流部会については6月22日となっております。上流部会については6月20日と25日となっております。詳細については、後日各委員の方々にご連絡させて頂きます。本日、長い時間ありがとうございました。首藤先生ありがとうございました。以上をもちまして、北上川水系河川整備学識者懇談

会を終了させていただきます。